



写真: タマゴタケ幼菌 (撮影: 平成27年9月15日)

「タマゴタケ」

見てよし、食べてよし

初秋、まだ暑さの残る霧島山。林内をハイキング中に鮮やかな真っ赤な花がと思ったら大きな大きなキノコ。地表を鮮やかに彩るキノコの季節の到来を告げてくれるのが、この美しいタマゴタケです。

人によっては「毒々しい」と思われそうですが、「派手なキノコは毒」という俗説を覆す優れた食用のキノコです。生食は危険なためしっかりと火を通すことで食べることができます。しかし、鮮やかな色が失われるのが残念なところです。

発生し始めは、丸い白い卵状で、そこからニョキニョキと派手な傘と柄が伸びてくることが名前の由来となっています。赤いキノコが顔を出した様子はとてもかわいらしく、落ち葉の隙間からお顔を出した小人のようです。

見てよし、食べて良しのタマゴタケ。キノコの魅力を凝縮したこの森の小人を、ぜひ、探してみてください。キノコの不思議な世界の扉を開けるかもしれません。
 (文/えびのエコミュージアムセンター)

タマゴタケ
Amanita caesareoides

ハラタケ目テングタケ科

